

# 平成 29 年度捕獲技術安全講習会（上トマム地区）実施報告書

占冠村役場 林業振興室

日頃から、本村のエゾシカ対策にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。先にお知らせしました通り、去る5月28日に標記の講習会を実施致しましたので、下記の通り結果をご報告いたします。今後とも対策の推進と安全の確保に向け、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 記

### 1 概 要

- (1) 日 時 平成29年5月28日 13時～17時
- (2) 場 所 勇払郡占冠村字上トマム 村道青森団体線沿線  
トマムコミュニティセンター
- (3) 参加者 15名 属性は次の通り
- ・村役場 4名（うち1名は捕獲従事者）
  - ・学識経験者（講師） 1名
  - ・農家 2名
  - ・捕獲従事者 5名
  - ・一般住民 2名
  - ・警察関係者 1名

### 2 目 的

銃を用いた捕獲活動に係る安全性の確保と不安の除去を進めるため、役場と捕獲従事者（ハンター）、地域住民や安全管理の専門家が集い、現場で話しながら法規上の適否や危険要素、不安要素の指摘を行う。

### 3 経 過

#### (1) 図上講習（屋内、1h）

- ・趣旨説明（担当浦田）  
実施に至る背景を説明。安全管理の原則の徹底と、現場における判断の共有化を図りたい。捕獲活動を制限して済ませるだけでなく、より安全な捕獲手法を工夫し、シカ被害対策と安全確保を両立するための前向きな議論を行いたい。
- ・自己紹介（参加者全員）  
所属、氏名、講習会に向けた抱負を述べた。
- ・講 演（伊吾田准教授）  
酪農学園大学狩猟管理学研究室の伊吾田准教授により、銃猟における安全5原則について、資料（別紙）を用いて解説。また道道と道東道、石勝線の絡み

合う鷓川沿いの状況を引き合いに、土地勘の重要性も指摘。

・ **ディスカッション1**（参加者全員、進行浦田）

狩猟読本抜粋資料を用いて、銃猟に絡む各種の規則を、その理由や具体例を考えながら確認した。住居集合地域の基準、道路回避の基準、散弾と単体弾での銃口方向保持の違いなど。発射の方向、バックストップ（安土）の確保については基準があいまいで、事例を用いた検討と確認の必要性が提起された。

・ **ディスカッション2**（参加者全員、進行浦田）

上トマム地区の地形図や航空写真を用いて、当地の特性を指摘、抽出した。山なり曲面を基調としたなだらかな地形や、道路と住居の所在、開豁地と樹林の配置に注目し、現地講習を前に、検討のポイントを洗い出した。

(2) **現地講習**（2.5h、バス移動）

・ **区域A**（地図参照）

道道を南富良野町界に向けて進み、道東道と道道、村道に囲まれた区域を望んだ。草地、荒地におけるシカへの発砲の可否について議論した。中ほどの樹林がバックストップたり得るかが提起され、弾の通過や跳弾があり得ること、樹林内の人の有無が確認できないことから、どの方向からも発砲は困難と結論づけられた。また村道の上から見ると、区域内の樹林と道道向いの山が連続して見え、危険性を直感しづらいことも指摘された。

途中、南富良野側にいるシカを発見した。対象区域ではないが、実践的な判断のケーススタディとして活用した。

・ **区域B**（地図参照）

村道青森団体線を進み、道東道をくぐった先で、右側に造林地が広がり、シカを発見できそうな開けた区域があった。発砲の可否については、バックストップが得られないこと、その先に住宅や道路、畑があることから、不可との判断が容易に得られた。

・ **区域C**（地図参照）

村道の左側に広い草地が広がる。事前に管理者の了解を得ており、バスを降りて徒歩で草地に入った。シカの想定位置や射点を変えながら、危険性の有無を考えた。この結果、南富良野町側の樹林への発砲は、バックストップがなく危険と判断された。草地は長手方向に見ると奥がせりあがっており、シカの向こうに広がる草地にバックストップを求められる射線も見出せた。しかしながらその方向も、誤って撃ち上げれば樹林の向こうの農業用水施設や送電設備に至ることが分かり、確実に草地の幅に収めるために慎重な発砲が求められる。この草地の管理者は、捕獲活動は可、車両の進入は不可との要望であり、ここで周知した。

この場所では模擬銃も使い、捕獲作業を想定した動作と視野を確認した。非従事者も併せて体験した。

・ **区域D**（地図参照）

坂を上り終わったところで右下に広がる草地。その先に住宅があること、射線を変えても道路が絡むことが確認された。発砲は不適との結論。

・ **区域E**（地図参照）

村道の山側に長く伸びる草地。所有の農家さんも参加されており、日頃の情報や要望も併せて議論できた。春と晩秋を中心に捕獲への要望は強いものの、地形上、深いバックストップは取りづらく、草地をバックとできる射線も極めて浅い角度幅にとどまることが確認された。草地の山手に樹林を挟んで配置された道路について、封鎖するなど、これに射線に乗せて可とする方策を模索したが、困難と結論づけられた。参加者から、射点につくため道路を下りれば、位置が下がり条件が悪化することが指摘された。しかしこれを逆手に取り、高い射座を路外に確保すれば角度の条件は好転し、現実的で安全な射線を追及できる。講師から、類似の事例（ハイシート）について情報提供があり、農家さんの望む晩秋の捕獲に向け、整備を検討することにした。また当地使用の農家さんは捕獲実施時の事前連絡を希望された。

・ **区域F**（地図参照）

村道の下方の草地。車の上からは、草地の地面を背景にシカを望める位置であるが、道路下に降りると視線と地面のなす角度が浅く、遠方の木立へ弾が飛ぶと予想された。よって発砲には不適。

・ **区域G**（地図参照）

村道の山手に広がる草地。中央付近で浅い谷折りになっており、せりあがった奥の地面を背景に、手前にいるシカを捕捉できる。山手には住宅や畜舎、村道があるので、射線は東へとることがより安全である。いずれにしても撃ち上げぬよう慎重な発砲を要する。この草地を使用の農家さんの意向は捕獲を可、車両の乗り入れは状況により必要最低限としたい旨であり、伝達した。

・ **区域H**（地図参照）

村道の最も奥の区間の、西側の草地（旧放牧地）。斜面に沿って上トマム川へ向かう射線は、樹林を通して先の村道に及ぶため、危険と判断された。この区域の中ほどを、斜めに沢が横切っており、浅いV字の地形をなしている。このくぼみにいるシカは、射線を得られるとされた。出来るだけ下手から、南寄りに射線を据える必要がある。

・ **区域I**（地図参照）

村道の最も奥の区間の、東側の草地。道から 100m程度までは、次第に傾斜を増す登りで、草地の地面を背景とした射線を得ることができる。その先は山なりに傾斜を変え、シカの背景は空になり、発砲できない。シカを撃てるのは道に比較的に近い帯状の区域に限られると判断された。区域H、Iの農家さんも、捕獲実施時の事前連絡を希望された。

### (3) 総括（屋内、0.5h）

#### ・現地講習の結果確認（担当浦田）

地図、航空写真に書き込みながら、現地でどのような議論があり、どのような結論を得たかを確認した。当初の懸念通り、銃猟に適さない区域が多いことが明らかとなった。また銃猟を可と判断できた場所のいずれも、その許容幅は広くはなく、特に慎重な注意を要することが認識された。

このほか、聞き取ることができた農家さんの意見、意向についても、再度確認した。ハイシート（高所射座）の可能性についても再確認した。

#### ・講評（伊吾田准教授）

安全管理の原則は明快であるが、実際の環境中ではどのように適用するか、安全な発砲の方法を見出すには難しい局面が多かった。上トナム地区の地形ならではの危険性も、現地で見せてもらってよくわかった。改めて、初心に帰って原則を順守することの大事さが示されたと思う。このような講習会はとても良い取り組み。自分としても勉強になった。

#### ・補足事項（担当浦田）

当講習会の結果を取りまとめ、後日配布する。

講習会ではすべての場所を見ることは出来なかったが、今回の判断基準を準用すれば、上トナムの他の区域の多くが銃猟の困難な場所と考えられる。今回、判定できなかった場所で銃猟を検討する場合は、事前に担当へ確認してほしい。

こうした講習会を、今後も発展させてゆきたいと考えているが、捕獲従事者は各々が、平素から厳しい基準で安全管理に臨むこと。捕獲効率との相反はあるが、困難をバネに、より安全な捕獲手法を工夫し、技量向上につなげてゆきたい。

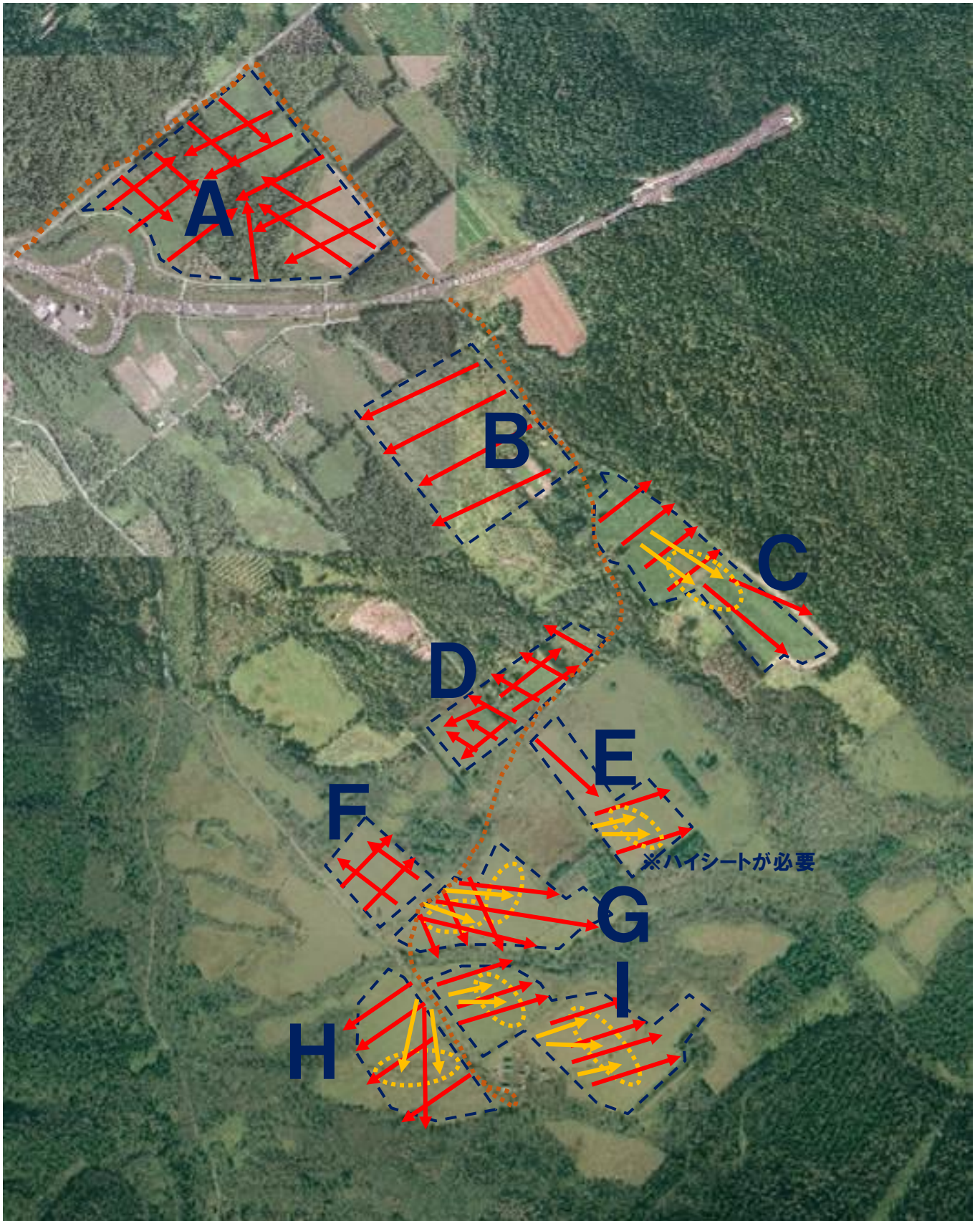
## 4 成 果

今回の講習会を通じて、一般的な安全管理原則から、地域の特性に起因する危険要素、判断要件まで、様々な階層で安全意識、安全技術を深めることができた。また捕獲従事者同士、非従事者との間で、現状への共通認識と信頼関係を作る端緒とすることができたと考えられる。さらに、議論の内容や判断結果をまとめた当報告書をもって、非参加者への伝達や以後の再確認に供する資料を得た。

## 5 写 真



6 現地講習先配置図



- 可能な射線
- 不適当な射線

○ 撃てるシカ位置